

# FX1000における インターコネクトの利用について

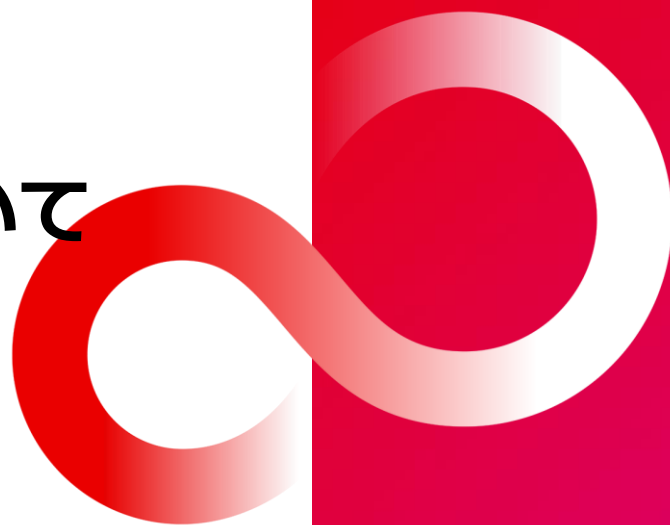
2023.9.6

富士通株式会社

ジャパン・グローバルゲートウェイ

Public & Social ITS Division

笠井良浩



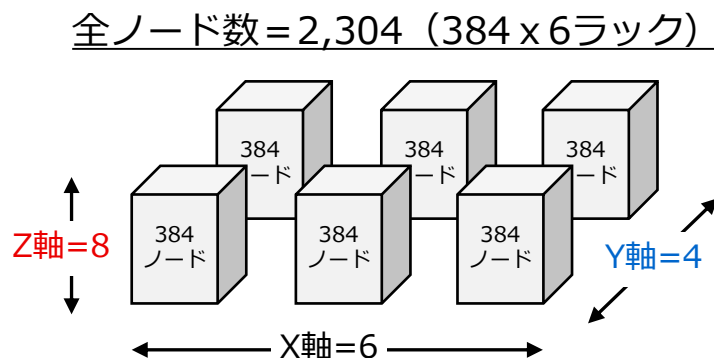
1. はじめに
2. FX1000のインターコネクトの構成
3. 通信性能の確認
4. ノード形状の指定方法
5. MPIランクの割り当て
6. ランクマップファイル
7. ノード形状の確認方法
8. MPIランクの割り当て状況
9. 付録

- FX1000での並列ジョブ実行は、指定方法によって性能差が生じる場合があります。特にMPI通信については、プロセスの配置が通信性能に大きく影響するため、通信性能の改善を図る場合は、プロセスの配置について把握することが重要になります。今回は通信性能に影響するノードの形状やプロセスの配置について説明をします。
  - ノード形状によるプロセスの配置について
  - プロセスがどのように配置されたかを確認する方法

- FX1000のインターコネクトの構成

- 不老システムTypeIサブシステム

TypeIサブシステムはFX1000を2,304ノード/6ラックで構成されている



- TofuインターコネクトDの形状

全6ラックでのTofuインターコネクトD形状は  $(X, Y, Z, a, b, c) = (6, 4, 8, 2, 3, 2)$  となる

それぞれの次元だと以下の形状になる

- 3次元の場合 =  $12 \times 12 \times 16$  ( $X*a, Y*b, Z*c$ )
- 2次元の場合 =  $36 \times 64$  ( $X*a*b, Y*Z*c$ )
- 1次元の場合 = 2304 ( $X*a*Y*b*Z*c$ )

- FX1000のインターコネクトの構成

- 不老システムTypeIサブシステムのリソースグループの確認
- pjstatコマンドによる確認

```
[username@flow-fx01 ~]$ pjstat --rsc
```

RSCUNIT	RSCUNIT_SIZE	RSCGRP	RSCGRP_SIZE
fx[ENABLE, START]	6x4x8	fx-large[ENABLE, START]	8x12x16
fx[ENABLE, START]	6x4x8	fx-xlarge[ENABLE, START]	8x12x16
fx[ENABLE, START]	6x4x8	fx-bmt[ENABLE, START]	6x12x16
fx[ENABLE, START]	6x4x8	fx-special[ENABLE, STOP]	12x12x16
fx[ENABLE, START]	6x4x8	fx-middle2[ENABLE, START]	8x12x16
fx[ENABLE, START]	6x4x8	fx-interactive[ENABLE, START]	4x12x16
fx[ENABLE, START]	6x4x8	fx-small[ENABLE, START]	4x12x16
fx[ENABLE, START]	6x4x8	fx-debug[ENABLE, START]	4x12x16
fx[ENABLE, START]	6x4x8	fx-middle[ENABLE, START]	8x12x16

用意されているリソースグループ

各リソースグループのX軸、Y軸、Z軸のノード数を表す。プログラムの実行で必要なノード数は、このサイズ内で指定する。

TofuのX軸、Y軸、Z軸のサイズを表す。

- pjstat2コマンドによる確認

```
[username@flow-fx01 ~]$ pjstat2 --rsc
```

RSCGRP	STATUS	NODE
fx-interactive	[ENABLE, START]	768:4x12x16
fx-small	[ENABLE, START]	768:4x12x16
fx-debug	[ENABLE, START]	768:4x12x16
fx-middle	[ENABLE, START]	1536:8x12x16
fx-middle2	[ENABLE, START]	1536:8x12x16
fx-large	[ENABLE, START]	1536:8x12x16
fx-xlarge	[ENABLE, START]	1536:8x12x16
fx-special	[ENABLE, STOP]	2304:12x12x16

用意されているリソースグループ

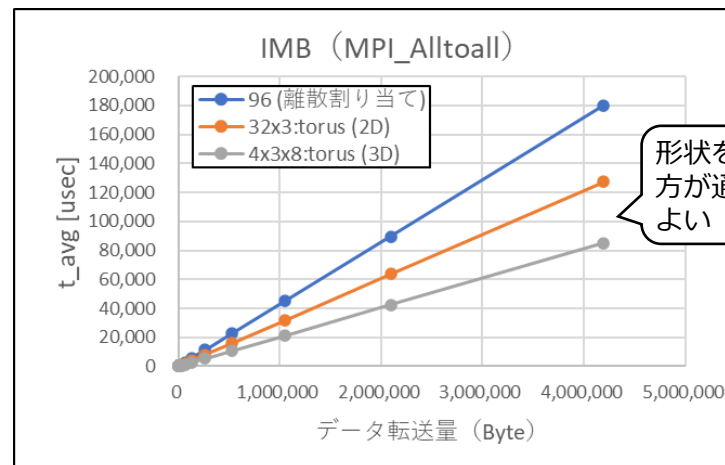
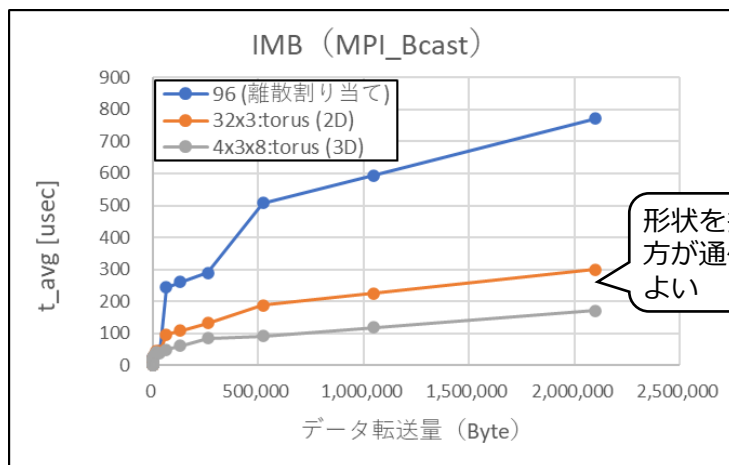
各リソースグループのX軸、Y軸、Z軸のノード数を表す。プログラムの実行で必要なノード数は、このサイズ内で指定する。

# 3. 通信性能の確認 (1/6)

## ● 通信性能の確認

### ● 実行条件

- 使用プログラム : IMBのMPI\_Bcast, MPI\_Alltoall
- 96プロセス実行 (96ノード使用)
- 1次元、2次元、3次元による性能の確認
  - 1次元 node=96 ← デフォルトは離散割り当て (noncont)
  - 2次元 node=32x3:torus
  - 3次元 node=4x3x8:torus



MPI通信の性能を上げるには、ノードの形状指定が有効であることが分かる

# 3. 通信性能の確認 (2/6)

- MPI通信のコストの調査方法

- 詳細プロファイラ(fapp)で確認する

詳細プロファイラの実行結果にMPIのプロファイル結果がある。プログラムで使用されているMPI関数の種別やコスト情報等が確認できる。

```
MPI profile
*****
Application
*****
Kind  Elapsed(s)  Wait(s)  Byte  Call (  0-4K  4K-64K  64K-1024K  1024KByte-)
-----
      10231.7422  2462.3977  ---  125513560  99447368  15782712  7828920  2454560  all 0
-----
AVG   0.0093  0.0000  18969.4664  1675.0208  1213.4375  350.1667  105.1667  6.2500  MPI_Send
MAX   0.2035  0.0000  19863.3741  38468      27390     8404      2524      150
MIN   0.0001  0.0000  4.0000     77         77         0         0         0
-----
AVG   1.0980  0.0000  19855.0201  179233.3958  127536.0625  39218.6680  11778.6670  700.0000  MPI_Recv
MAX   3.0537  0.0000  19863.3741  541093     386001    117656    35336     2100
MIN   0.4225  0.0000  19730.5484  76782     54626     16808     5048      300
-----
AVG   0.6574  0.0000  39726.7482  87979.3750  57777.5000  19259.1660  10211.6670  731.0417  MPI_Sendrecv
-----
<省略>
*****
Process 0
*****
      Elapsed(s)  Wait(s)  Byte  Call (  0-4K  4K-64K  64K-1024K  1024KByte-)
-----
      198.4422  6.4302  ---  7013809  5428663  890824  548944  145378  all 0
-----
      0.2035  0.0000  19863.3741  38391  27313  8404  2524  150  MPI_Send
      3.0537  0.0000  19730.5484  541093  386001  117656  35336  2100  MPI_Recv
      1.7642  0.0000  39726.7482  230346  151272  50424  26736  1914  MPI_Sendrecv
-----
<省略>
```

詳細プロファイラのデータ採取方法、結果出力の方法は次頁を参照

- MPI通信のコストの調査方法

- 詳細プロファイラの確認方法

詳細プロファイラの結果を確認するには、プロファイルデータの採取と結果出力を行う必要がある。

- 詳細プロファイルデータの採取方法

プログラムの実行時にfappコマンドを付けると、プロファイルデータが採取される。

実行ジョブスクリプト例

```
#!/bin/bash
#----- pjsub option -----#
#PJM -L rscunit=fx
#PJM -L rscgrp=fx-xlarge
#PJM -L elapse=1:00:00
#PJM -L node=256
#PJM --mpi proc=256
#PJM -s

#----- Program execution -----#
fapp -C -d ./profile_data mpiexec ./a.out
```

詳細プロファイラの詳細については「プロファイラ使用手引書」を参照のこと  
プロファイラ使用手引書はHPC Portalより入手することが可能  
HPC Portal(<https://portal.cc.nagoya-u.ac.jp/cgi-bin/hpcportal.ja/index.cgi>)の「言語製品」  
→ 「FX1000 言語製品」  
→ 「開発支援ツール」  
→ 「プロファイラ使用手引書」

このジョブスクリプトを実行するとprofile\_dataというディレクトリに詳細プロファイルのデータが採取される

profile\_dataディレクトリの詳細プロファイルデータからprofile\_result.txtというテキストファイルに結果が出力される

- 詳細プロファイラの結果出力方法

fappxコマンドを使用して結果を出力する

```
[username@flow-fx01 ~]$ fappx -A -d ./profile_data -o ./prof_result.txt
[username@flow-fx01 ~]$
```



- MPI通信の通信内容の確認方法

- MPI統計情報を取得する

実行時のmcaオプションでMPIの統計情報を取ることが可能。MPIに関する統計情報が確認できる。

```
=====
/***** MPI Statistical Information *****/
=====

----- MPI Information -----
Dimension                1
Shape                   48

----- MPI Memory Usage (MiB) -----
Estimated_Memory_Size   110.46

----- Per-peer Communication Count -----
In_Node                 0
Neighbor                0
Not_Neighbor           0
Total_Count            0
Connection              47
Max_Hop                 6
Average_Hop            3.23

----- Per-peer Transmission Size (MiB) -----
In_Node                 0.00
Neighbor                0.00
Not_Neighbor           0.00
Total_Size              0.00

----- Per-protocol Communication Count -----
Eager                   0
Rendezvous              0
Persistent_Extended_IF  0

Unexpected_Message      1

----- Barrier Communication Count -----
Tofu                    192625
Soft                    38583

----- Tofu Barrier Collective Communication Count -----
Bcast                   122
Reduce                  0
Allreduce               504

----- 6D-Tofu-specific Collective Communication Count -----
Alltoall                0

----- Tofu-specific Collective Communication Count -----
Bcast                   0
Reduce                  0
Gather                  0
Gatherv                 0
Allreduce               0
Alltoall                116457
Alltoallv               0
Allgather               0
Allgatherv              0

----- Non-Tofu-specific Collective Communication Count -----
Bcast                   25
Reduce                  0
Gather                  144

<省略>
```

MPI統計情報の出力方法は次頁を参照

## ● MPI通信の通信内容の確認方法

### ● MPI統計情報を取得する

- 実行時のmcaオプションでMPIの統計情報を取ることが可能
- 実行プログラムの再コンパイルの必要はない
- 標準エラーに出力。ジョブ実行の場合は .errファイルに出力される。

実行ジョブスクリプト例

```
#!/bin/bash
#----- pjsub option -----#
#PJM -L rscunit=fx
#PJM -L rscgrp=fx-xlarge
#PJM -L elapse=1:00:00
#PJM -L node=256
#PJM --mpi proc=256
#PJM -s

#----- Program execution -----#

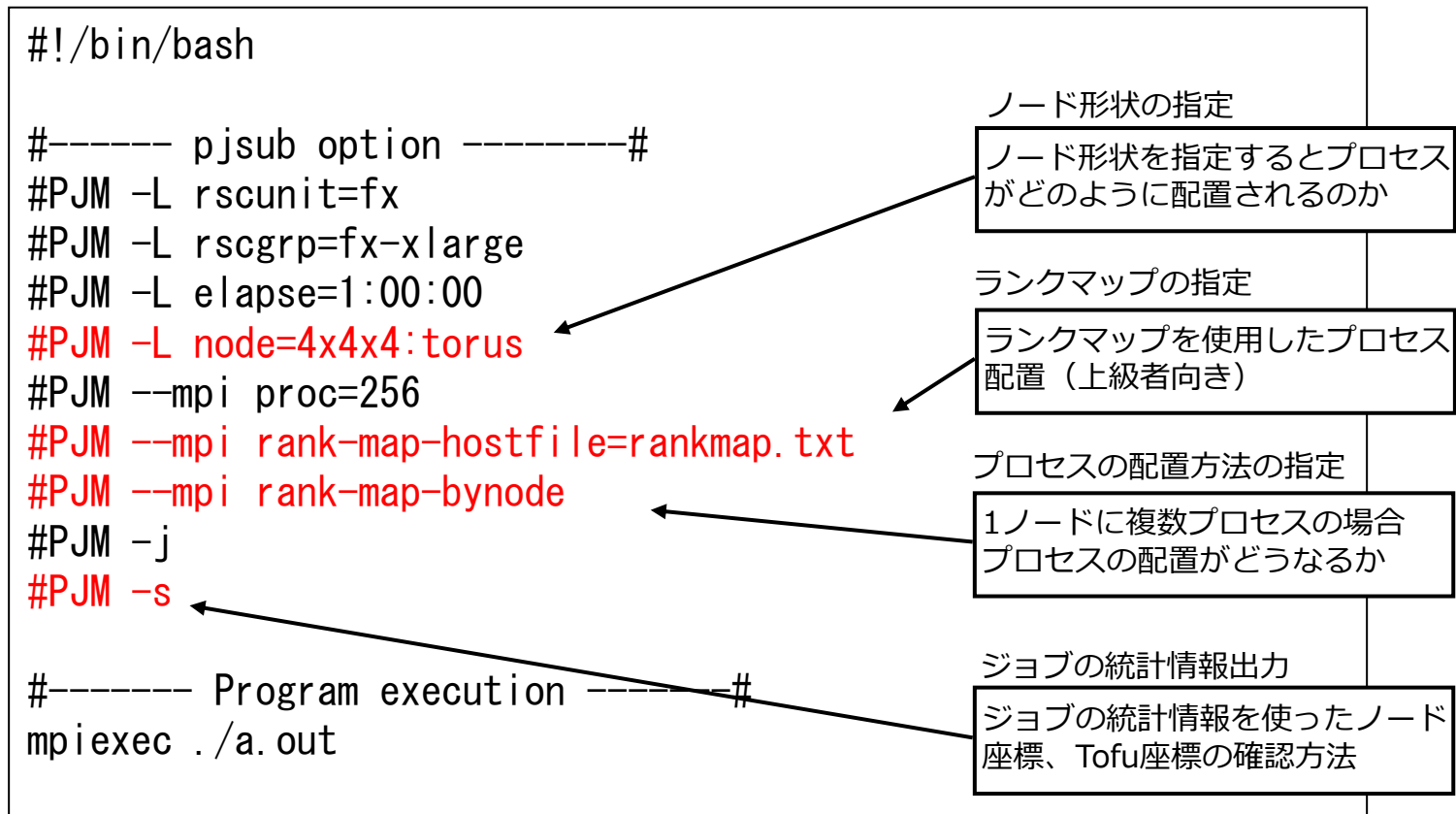
mpiexec -mca mpi_print_stats 2 ./a.out
```

MPI統計情報については「MPI使用手引書」6.15 MPI統計情報 を参照のこと  
MPI使用手引書はHPC Portalより入手することが可能  
HPC Portal(<https://portal.cc.nagoya-u.ac.jp/cgi-bin/hpcportal.ja/index.cgi>)の  
「言語製品」  
→ 「FX1000 言語製品」  
→ 「MPI」  
→ 「MPI使用手引書」

# 3. 通信性能の確認 (6/6)

- ノードの形状に関する部分 (本日の説明の範囲)

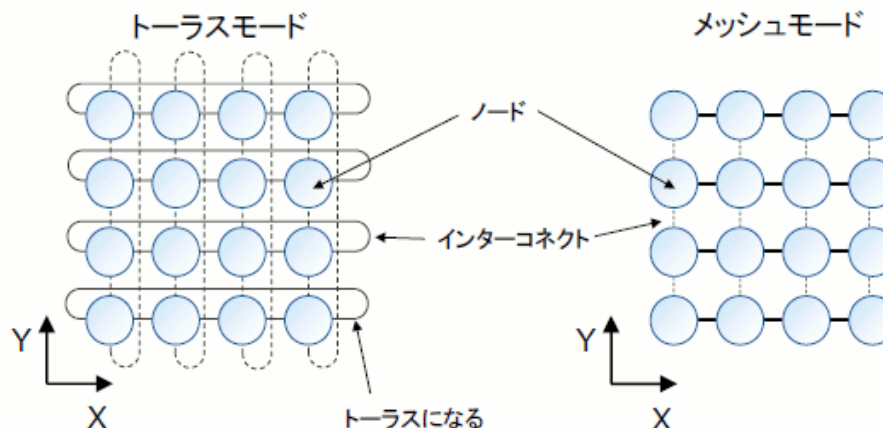
TypeIのバッチジョブスクリプト例



# 4. ノード形状の指定方法 (1/2)

## ● ノードの配置方法

ノードの配置方法	説明
メッシュモード (mesh)	最少割り当て単位は1ノード Tofu座標上で隣接するノードが選択
トーラスモード (torus)	最少割り当て単位はTofu単位(12ノード) Tofu座標上で隣接するノードが選択
離散割り当て (noncont) デフォルト	最少割り当て単位は1ノード できるだけTofu座標上で隣接するように選択 以下の場合は隣接するノードが選択されない ・隣接する空きノードが無い場合 ・隣接しないノードを選択することでジョブの実行開始が早められる場合



- rank-map-bynode

- 計算ノードに1プロセスを生成すると、次の計算ノードに移動して、1プロセスを生成する

- rank-map-bychip(デフォルト)

- 計算ノードにnプロセスを生成すると、次の計算ノードに移動して、nプロセスを生成する

- rank-map-hostfile

- ホストファイルに指定された座標を元に、ランクを割り当てる

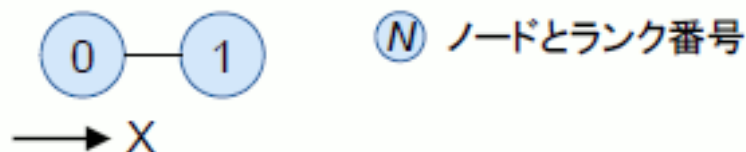
- ランクの割り当て方法 (1次元)

- 座標の原点をランク0とし、ノード割り当てはランク0のノードから隣接するノードに移動する。
- 1ノードに1つのランク(プロセス)を生成する場合は、rank-map-bychip, rank-map-bynodeどちらを指定してもノードの割り当て方は同じ。
- どちらも指定しない場合は、**デフォルトのrank-map-bychip**となる

```
--mpi rank-map-bynode  
--mpi rank-map-bychip
```

- 例

```
#PJM -L node=2  
#PJM --mpi proc=2  
#PJM --mpi rank-map-bynode
```



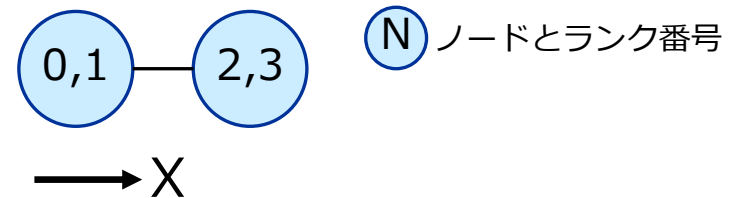
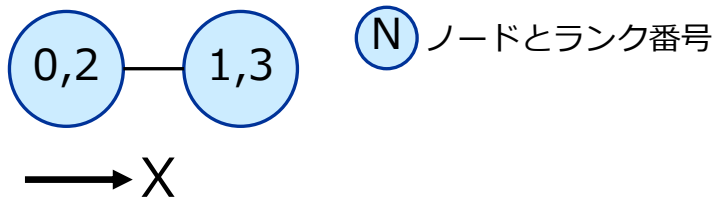
# 5. MPIランクの割り当て (2/6)

- ランクの割り当て方法 (1次元)

割り当てノードの順番	割り当てるランク	
	rank-map-bynodeの場合	rank-map-bychipの場合
0番	ランク0と2	ランク0と1
1番	ランク1と3	ランク2と3

```
#PJM -L node=2  
#PJM --mpi proc=4  
#PJM --mpi rank-map-bynode
```

```
#PJM -L node=2  
#PJM --mpi proc=4  
#PJM --mpi rank-map-bychip
```



# 5. MPIランクの割り当て (3/6)

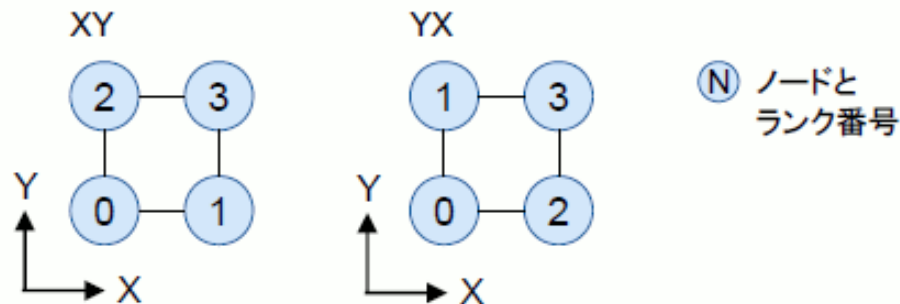
- ランクの割り当て方法 (2次元)

- 形状が2次元の場合は、ランクの割り当て方法を2種類(XY|YX)から選択できる。
- (XY|YX)の指定がない場合はXYとなる。

```
--mpi rank-map-bynode [= {XY|YX} ]  
--mpi rank-map-bychip [= {XY|YX} ]
```

- 例

```
#PJM -L node=2x2:torus  
#PJM --mpi proc=4  
#PJM --mpi rank-map-bynode=XY
```





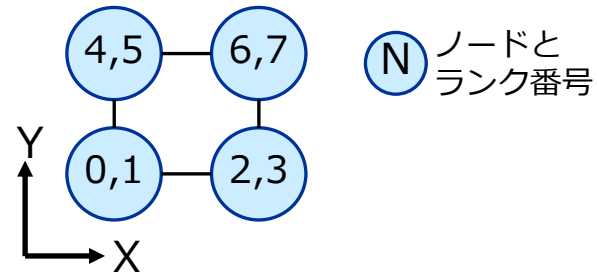
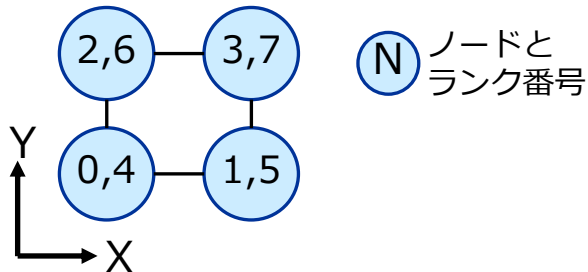
# 5. MPIランクの割り当て (4/6)

## ● ランクの割り当て方法 (2次元)

割り当てノードの順番	割り当てるランク	
	rank-map-bynodeの場合	rank-map-bychipの場合
0番	ランク0と4	ランク0と1
1番	ランク1と5	ランク2と3
2番	ランク2と6	ランク4と5
3番	ランク3と7	ランク6と7

```
#PJM -L node=2x2:torus  
#PJM --mpi proc=8  
#PJM --mpi rank-map-bynode
```

```
#PJM -L node=2x2:torus  
#PJM --mpi proc=8  
#PJM --mpi rank-map-bychip
```



# 5. MPIランクの割り当て (5/6)

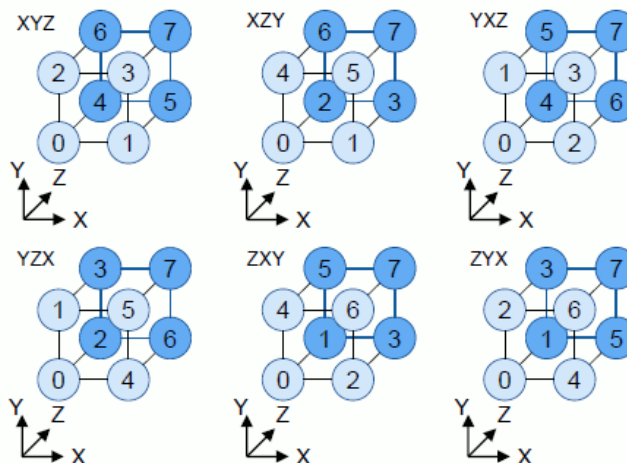
## ● ランクの割り当て方法 (3次元)

- 形状が3次元の場合は、ランクの割り当て方法を6種類から選択できる。
- (XYZ|XZY|YXZ|YZX|ZXY|ZYX)の指定がない場合はXYZとなる。

```
--mpi rank-map-bynode [= {XYZ|XZY|YXZ|YZX|ZXY|ZYX} ]  
--mpi rank-map-bychip [= {XYZ|XZY|YXZ|YZX|ZXY|ZYX} ]
```

## ● 例

```
#PJM -L node=2x2x2:torus  
#PJM --mpi proc=8  
#PJM --mpi rank-map-bynode=XYZ
```



(N) (N) ノードとランク番号

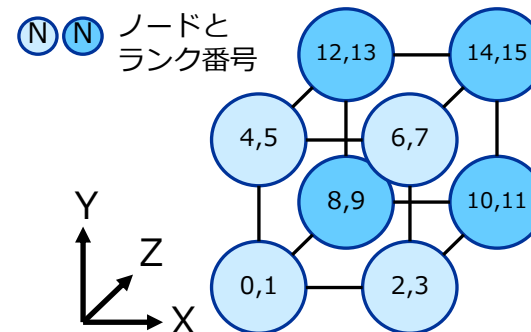
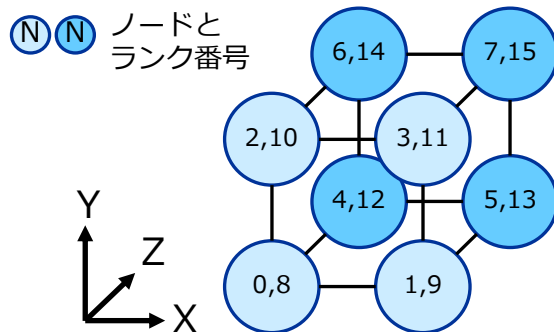
# 5. MPIランクの割り当て (6/6)

## ● ランクの割り当て方法 (3次元)

割り当てノードの順番	割り当てるランク	
	rank-map-bynodeの場合	rank-map-bychipの場合
0番	ランク0と8	ランク0と1
1番	ランク1と9	ランク2と3
2番	ランク2と10	ランク4と5
3番	ランク3と11	ランク6と7
4番	ランク4と12	ランク8と9
5番	ランク5と13	ランク10と11
6番	ランク6と14	ランク12と13
7番	ランク7と15	ランク14と15

```
#PJM -L node=2x2x2:torus  
#PJM --mpi proc=16  
#PJM --mpi rank-map-bynode
```

```
#PJM -L node=2x2x2:torus  
#PJM --mpi proc=16  
#PJM --mpi rank-map-bychip
```



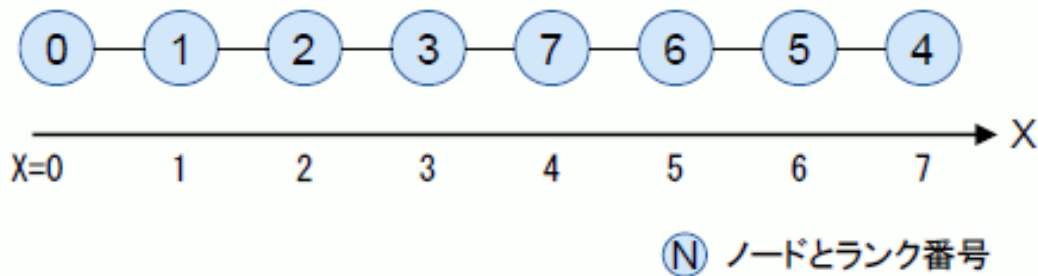
# 6. ランクマップファイル (1/3)

- ランクマップファイル (1次元)

- 形状が1次元の場合のランクマップファイルの例

```
[username@flow-fx01 ~]$ cat rankmapfile-1  
(0) <---- ランク0  
(1) <---- ランク1  
(2) <---- ランク2  
(3) <---- ランク3  
(7) <---- ランク4  
(6) <---- ランク5  
(5) <---- ランク6  
(4) <---- ランク7
```

```
#PJM -L node=8:torus  
#PJM --mpi proc=8  
#PJM --mpi rank-map-hostfile=rankmapfile-1
```



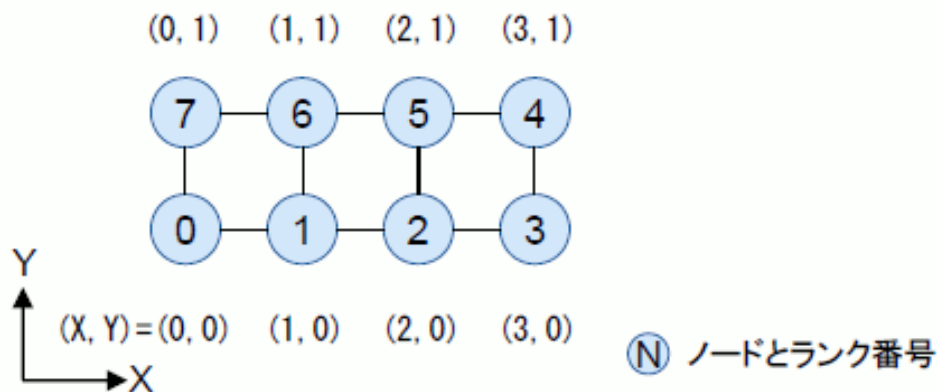
# 6. ランクマップファイル (2/3)

- ランクマップファイル (2次元)

- 形状が2次元の場合のランクマップファイルの例

```
[username@flow-fx01 ~]$ cat rankmapfile-2  
(0, 0) <----- ランク0  
(1, 0) <----- ランク1  
(2, 0) <----- ランク2  
(3, 0) <----- ランク3  
(3, 1) <----- ランク4  
(2, 1) <----- ランク5  
(1, 1) <----- ランク6  
(0, 1) <----- ランク7
```

```
#PJM -L node=4x2:torus  
#PJM --mpi proc=8  
#PJM --mpi rank-map-hostfile=rankmapfile-2
```



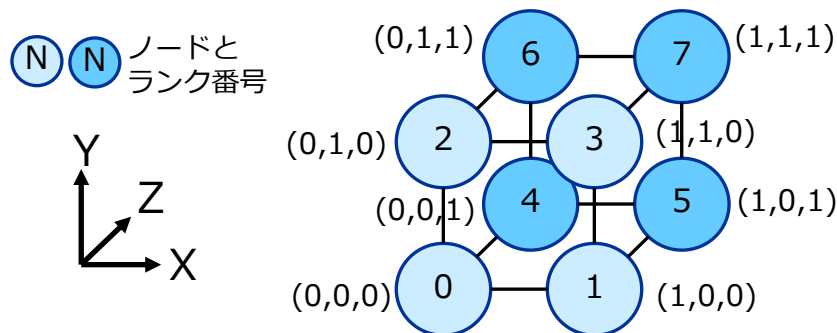
# 6. ランクマップファイル (3/3)

- ランクマップファイル (3次元)

- 形状が3次元の場合のランクマップファイルの例

```
[username@flow-fx01 ~]$ cat rankmapfile-3  
(0, 0, 0) <----- ランク0  
(1, 0, 0) <----- ランク1  
(0, 1, 0) <----- ランク2  
(1, 1, 0) <----- ランク3  
(0, 0, 1) <----- ランク4  
(1, 0, 1) <----- ランク5  
(0, 1, 1) <----- ランク6  
(1, 1, 1) <----- ランク7
```

```
#PJM -L node=2x2x2:torus  
#PJM --mpi proc=8  
#PJM --mpi rank-map-hostfile=rankmapfile-3
```



- ジョブの統計情報を取得する

- ジョブの統計情報の取得方法 (ジョブスクリプト例)

```
#!/bin/bash
#PJM -L rscunit=fx
#PJM -L rscgrp=fx-small
#PJM -L elapse=0:10:00
#PJM -L node=2x3x2:torus
#PJM --mpi proc=12
#PJM -s
mpiexec ./a.out
```

ジョブ統計情報を出力するオプション

- pjsub コマンドの -s または -S オプションで、ジョブの実行結果としてジョブ統計情報を出力。-S オプションは -s オプションで出力される統計情報に加えてノード毎の統計情報も出力する。
- ジョブ実行後にファイル拡張子statsのテキストファイルが生成される

# 7. ノード形状の確認方法 (2/4)

- ジョブの統計情報の出力内容を取得する
- ジョブの統計情報の出力例

```
Job Statistical Information

JOB ID          : 1005143
SUB JOB NUM     : -
START BULKNO    : -
END BULKNO      : -
HOST NAME       : flow-fx01
JOB NAME        : go_4x3x4.sh
JOB TYPE        : BATCH
JOB MODEL       : NM
USER            : fj-se
GROUP          : fj
RESOURCE UNIT   : fx
RESOURCE GROUP  : fx-middle
<略>
NODE NUM (REQUIRE) : 48:4x3x4
NODE NUM (ALLOC)   : 48:4x3x4
NODE NUM (USE)     : 32
NODE NUM (UNUSED)  : 0
NODE ID (USE)      : 0xFF2B0001 0xFF2E0005 0xFF2E0001 0xFF2B0007 0xFF2E0007 0xFF300001 0xFF2D0007
                   0xFF2C0001 0xFF2F0005 0xFF2F0001 0xFF2C0007 0xFF2E0008 0xFF2B0008
                   0xFF2D0005 0xFF300006 0xFF300008 0xFF2D0008 0xFF2F0008 0xFF2C0008
                   0xFF2B000D 0xFF2E000E 0xFF2E0010 0xFF2B0010 0xFF2D000D 0xFF30000E 0xFF300010 0xFF2D0010
TOFU COORDINATE (USE) : (2, 1, 6) (3, 1, 6) (3, 1, 6) (2, 1, 6) (2, 1, 6) (2, 1, 6) (2, 1, 6) (2, 1, 6) (2, 1, 6) (2, 1, 6)
                   (2, 1, 6) (2, 1, 7) (3, 1, 7) (3, 1, 7) (2, 1, 7) (2, 1, 7) (2, 1, 7) (2, 1, 7) (2, 1, 7) (2, 1, 7)
                   (3, 1, 7) (2, 1, 7) (3, 1, 7) (3, 1, 7) (3, 1, 7) (3, 1, 7) (3, 1, 7) (3, 1, 7) (3, 1, 7) (3, 1, 7)
NODE ID (RANK)       : 0xFF2B0001 (0) 0xFF2B0001 (1) 0xFF2E0005 (2) 0xFF2E0005 (3) 0xFF2E0001 (4) 0xFF2E0001 (5)
                   0xFF2B0007 (6) 0xFF2B0007 (7) 0xFF2D0001 (8) 0xFF2D0001 (9) 0xFF300005 (10) 0xFF300005 (11)
                   0xFF300001 (12) 0xFF300001 (13) 0xFF2D0007 (14) 0xFF2D0007 (15) 0xFF2C0001 (16) 0xFF2C0001 (17)
                   0xFF2F0005 (18) 0xFF2F0005 (19) 0xFF2F0001 (20) 0xFF2C0007 (21) 0xFF2E0008 (22) 0xFF2B0008 (23)
                   0xFF2D0005 (24) 0xFF2B0005 (25) 0xFF300006 (26) 0xFF300008 (27) 0xFF2D0008 (28) 0xFF2F0008 (29)
                   0xFF2B0008 (30) 0xFF2B0008 (31) 0xFF2E000E (32) 0xFF2E000E (33) 0xFF2E0010 (34) 0xFF2E0010 (35)
                   0xFF300008 (36) 0xFF300008 (37) 0xFF2D0008 (38) 0xFF2D0008 (39) 0xFF2C0005 (40) 0xFF2C0005 (41)
                   0xFF2F0006 (42) 0xFF2F0006 (43) 0xFF2F0008 (44) 0xFF2F0008 (45) 0xFF2C0008 (46) 0xFF2C0008 (47)
                   0xFF2B000D (48) 0xFF2B000D (49) 0xFF2E000E (50) 0xFF2E000E (51) 0xFF2E0010 (52) 0xFF2E0010 (53)
                   0xFF2B0010 (54) 0xFF2B0010 (55) 0xFF2D000D (56) 0xFF2D000D (57) 0xFF30000E (58) 0xFF30000E (59)
                   0xFF300010 (60) 0xFF300010 (61) 0xFF2D0010 (62) 0xFF2D0010 (63)
```

要求ノードと形状

割り当てノードと形状

使用ノード数

使用されたノードの  
ノードIDリスト

使用されたノードの  
Tofu座標リスト

割り当てられたノードのノードIDと  
カッコ内はそれに対応するランク番号



- ノード形状指定

- リソースグループの情報の表示

```
[username@flow-fx01 ~]$ pjstat --rsc
```

RSCUNIT	RSCUNIT_SIZE	RSCGRP	RSCGRP_SIZE
fx [ENABLE, START]	6x4x8	fx-large [ENABLE, START]	8x12x16
fx [ENABLE, START]	6x4x8	fx-xlarge [ENABLE, START]	8x12x16
fx [ENABLE, START]	6x4x8	fx-bmt [ENABLE, START]	6x12x16
fx [ENABLE, START]	6x4x8	fx-special [ENABLE, STOP]	12x12x16
fx [ENABLE, START]	6x4x8	fx-middle2 [ENABLE, START]	8x12x16
fx [ENABLE, START]	6x4x8	fx-interactive [ENABLE, START]	4x12x16
fx [ENABLE, START]	6x4x8	fx-small [ENABLE, START]	4x12x16
fx [ENABLE, START]	6x4x8	fx-debug [ENABLE, START]	4x12x16
fx [ENABLE, START]	6x4x8	fx-middle [ENABLE, START]	8x12x16

\$

指定できるサイズ

- ノードの利用状況により、指定した形状が割り当てられない場合は、形状を回転してノードを割り当てる。

### ジョブの統計情報

```
Job Statistical Information
```

<略>

NODE NUM (REQUIRE)	: 96:8x3x4
NODE NUM (ALLOC)	: <b>96:4x3x8</b>
NODE NUM (USE)	: 96
NODE NUM (UNUSED)	: 0
NODE ID (USE)	: 0xFF1F0004 0xFF1F0003

形状を回転してノードを割り当てる

## ● strictについて

### ● 形状を回転させない方法

```
#!/bin/bash
#PJM -L rscunit=fx
#PJM -L rscgrp=fx-large
#PJM -L elapse=00:01:00
#PJM -L node=8x3x4:torus:strict
#PJM --mpi proc=96
#PJM -s

mpiexec ./a.out
```

回転させたくない場合はstrictを付ける

### ● リソースグループの設定値より大きい形状を指定するとエラーメッセージが出力される。(例：12x3x4の形状指定でstrictを指定した場合)

```
[username@flow-fx01 ~]$ cat go12x3x4_torus_strict.sh
#!/bin/bash
#PJM -L rscunit=fx
#PJM -L rscgrp=fx-large
#PJM -L elapse=00:01:00
#PJM -L node=12x3x4:torus:strict
#PJM --mpi proc=144
#PJM -s

mpiexec ./a.out
```

strictを付けているため回転しない

```
[username@flow-fx01 ~]$
[username@flow-fx01 ~]$ pjsub go12x3x4_torus_strict.sh
[ERR.] PJM 0057 pjsub node=12x3x4 is greater than the upper limit (8x12x16).
```

エラーメッセージが出力される

# 8. MPIランクの割り当て状況 (1/4)

- ランクマップファイルを使った実行 (3次元: トーラス)
  - 形状が4x3x4(torus)の場合の状況

RANK NO	rankmap	NODE COORDINATE	TOFU COORDINATE	TOFU 6次元 (x,y,z,a,b,c)
0	(0,0,0)	(0,0,0)	(2,1,6)	(2,1,6,0,0,0)
1	(1,0,0)	(1,0,0)	(3,1,6)	(3,1,6,0,0,0)
2	(2,0,0)	(2,0,0)	(3,1,6)	(3,1,6,1,0,0)
3	(3,0,0)	(3,0,0)	(2,1,6)	(2,1,6,1,0,0)
4	(0,1,0)	(0,1,0)	(2,1,6)	(2,1,6,0,2,0)
5	(1,1,0)	(1,1,0)	(3,1,6)	(3,1,6,0,2,0)
6	(2,1,0)	(2,1,0)	(3,1,6)	(3,1,6,1,2,0)
7	(3,1,0)	(3,1,0)	(2,1,6)	(2,1,6,1,2,0)
8	(0,2,0)	(0,2,0)	(2,1,6)	(2,1,6,0,1,0)
9	(1,2,0)	(1,2,0)	(3,1,6)	(3,1,6,0,1,0)
10	(2,2,0)	(2,2,0)	(3,1,6)	(3,1,6,1,1,0)
11	(3,2,0)	(3,2,0)	(2,1,6)	(2,1,6,1,1,0)
12	(0,0,1)	(0,0,1)	(2,1,7)	(2,1,7,0,0,0)
13	(1,0,1)	(1,0,1)	(3,1,7)	(3,1,7,0,0,0)
14	(2,0,1)	(2,0,1)	(3,1,7)	(3,1,7,1,0,0)
15	(3,0,1)	(3,0,1)	(2,1,7)	(2,1,7,1,0,0)
16	(0,1,1)	(0,1,1)	(2,1,7)	(2,1,7,0,2,0)
17	(1,1,1)	(1,1,1)	(3,1,7)	(3,1,7,0,2,0)
:	:	:	:	:
44	(0,2,3)	(0,2,3)	(2,1,6)	(2,1,6,0,1,1)
45	(1,2,3)	(1,2,3)	(3,1,6)	(3,1,6,0,1,1)
46	(2,2,3)	(2,2,3)	(3,1,6)	(3,1,6,1,1,1)
47	(3,2,3)	(3,2,3)	(2,1,6)	(2,1,6,1,1,1)

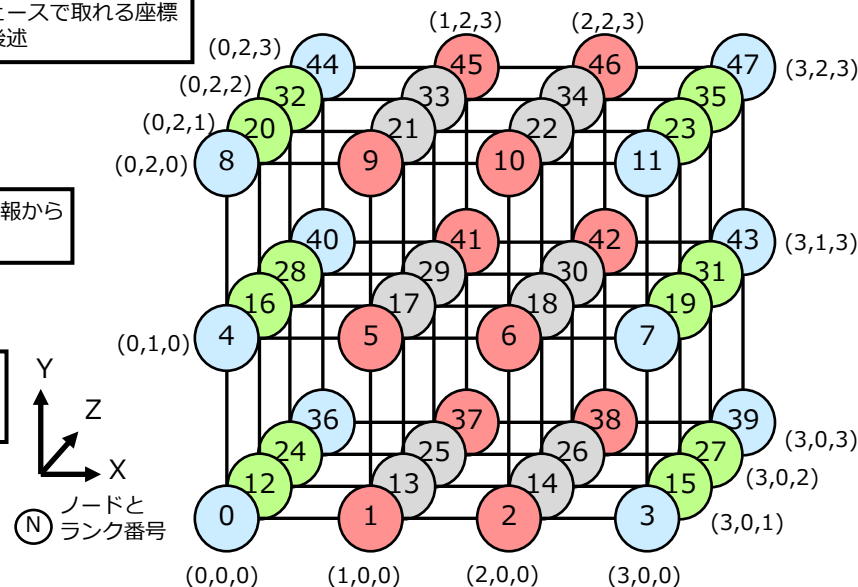
ランク問合せインターフェースで取れる座標 ※後述

ジョブ統計情報から取れる情報

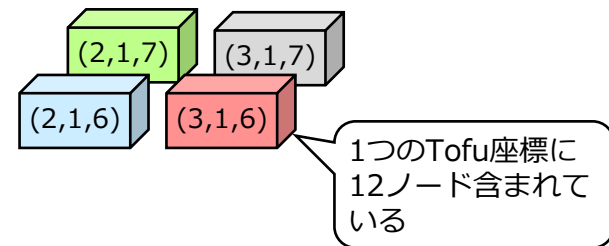
ランクマップファイルで指定した座標

同一TOFU単位で色分け

ノード座標



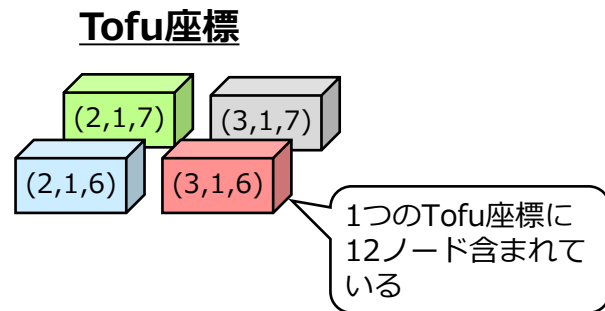
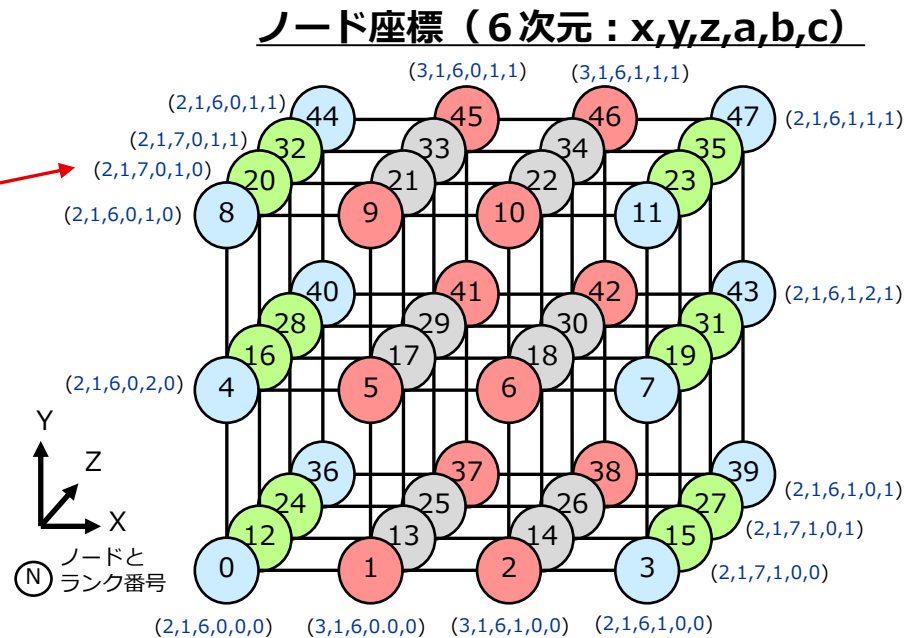
Tofu座標



# 8. MPIランクの割り当て状況 (2/4)

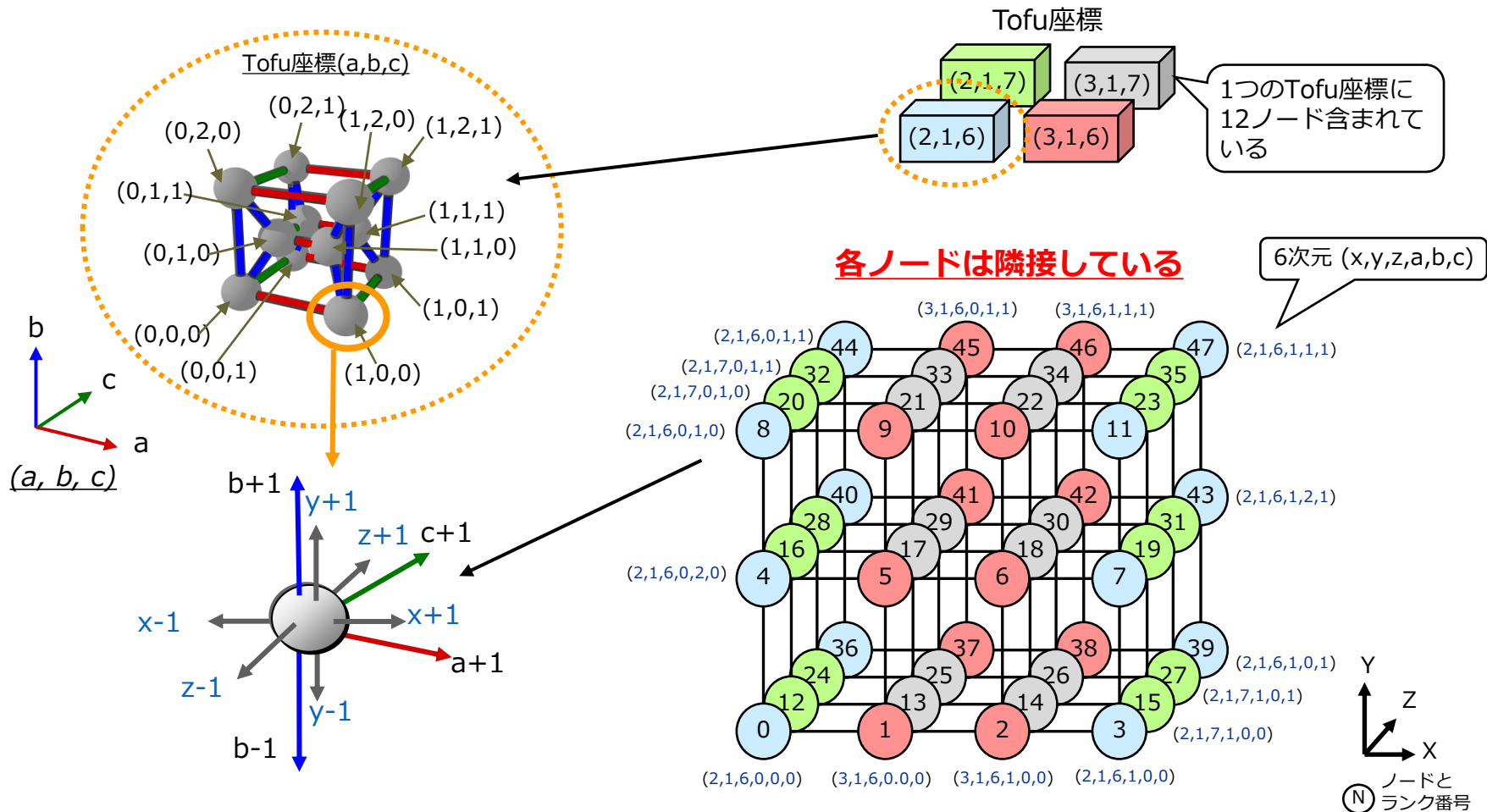
- ランクマップファイルを使った実行 (3次元: トーラス)
  - 形状が4x3x4(torus)の場合の状況

RANK NO	rankmap	NODE COORDINATE	TOFU COORDINATE	TOFU 6次元 (x,y,z,a,b,c)
0	(0,0,0)	(0,0,0)	(2,1,6)	(2,1,6,0,0,0)
1	(1,0,0)	(1,0,0)	(3,1,6)	(3,1,6,0,0,0)
2	(2,0,0)	(2,0,0)	(3,1,6)	(3,1,6,1,0,0)
3	(3,0,0)	(3,0,0)	(2,1,6)	(2,1,6,1,0,0)
4	(0,1,0)	(0,1,0)	(2,1,6)	(2,1,6,0,2,0)
5	(1,1,0)	(1,1,0)	(3,1,6)	(3,1,6,0,2,0)
6	(2,1,0)	(2,1,0)	(3,1,6)	(3,1,6,1,2,0)
7	(3,1,0)	(3,1,0)	(2,1,6)	(2,1,6,1,2,0)
8	(0,2,0)	(0,2,0)	(2,1,6)	(2,1,6,0,1,0)
9	(1,2,0)	(1,2,0)	(3,1,6)	(3,1,6,0,1,0)
10	(2,2,0)	(2,2,0)	(3,1,6)	(3,1,6,1,1,0)
11	(3,2,0)	(3,2,0)	(2,1,6)	(2,1,6,1,1,0)
12	(0,0,1)	(0,0,1)	(2,1,7)	(2,1,7,0,0,0)
13	(1,0,1)	(1,0,1)	(3,1,7)	(3,1,7,0,0,0)
14	(2,0,1)	(2,0,1)	(3,1,7)	(3,1,7,1,0,0)
15	(3,0,1)	(3,0,1)	(2,1,7)	(2,1,7,1,0,0)
16	(0,1,1)	(0,1,1)	(2,1,7)	(2,1,7,0,2,0)
17	(1,1,1)	(1,1,1)	(3,1,7)	(3,1,7,0,2,0)
:	:	:	:	:
44	(0,2,3)	(0,2,3)	(2,1,6)	(2,1,6,0,1,1)
45	(1,2,3)	(1,2,3)	(3,1,6)	(3,1,6,0,1,1)
46	(2,2,3)	(2,2,3)	(3,1,6)	(3,1,6,1,1,1)
47	(3,2,3)	(3,2,3)	(2,1,6)	(2,1,6,1,1,1)



# 8. MPIランクの割り当て状況 (3/4)

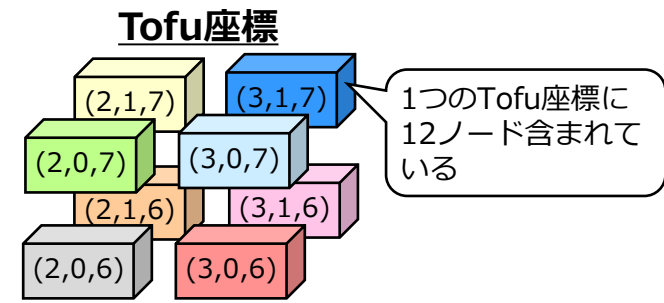
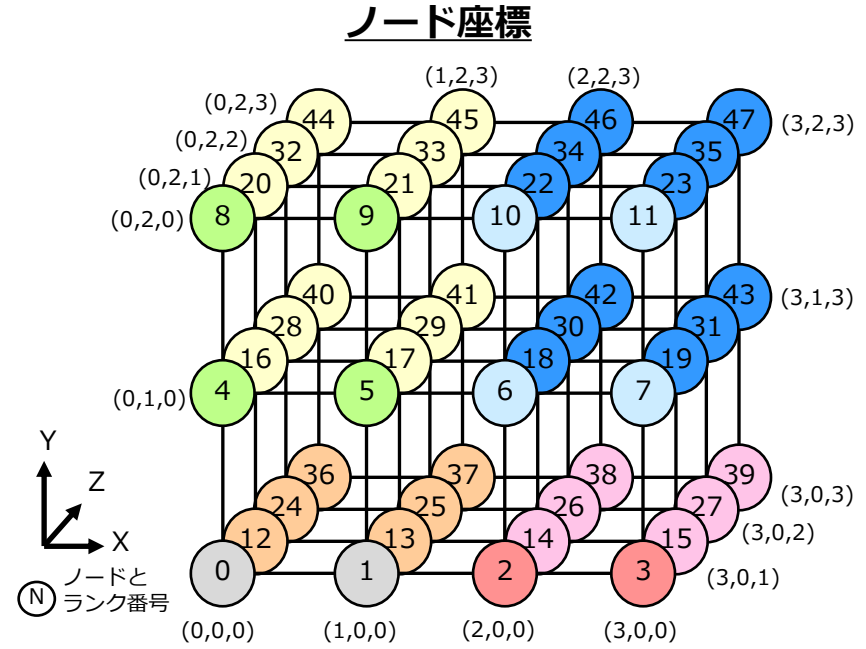
- ランクマップファイルを使った実行 (3次元: トーラス)
  - 形状が4x3x4(torus)の場合の状況



# 8. MPIランクの割り当て状況 (4/4)

- ランクマップファイルを使った実行 (3次元: メッシュ)
  - 形状が4x3x4(mesh)の場合の状況

RANK NO	rankmap	NODE COORDINATE	TOFU COORDINATE	TOFU 6次元 (x,y,z,a,b,c)
0	(0,0,0)	(0,0,0)	(2,0,6)	(2,0,6,0,2,1)
1	(1,0,0)	(1,0,0)	(2,0,6)	(2,0,6,1,2,1)
2	(2,0,0)	(2,0,0)	(3,0,6)	(3,0,6,1,2,1)
3	(3,0,0)	(3,0,0)	(3,0,6)	(3,0,6,0,2,1)
4	(0,1,0)	(0,1,0)	(2,0,7)	(2,0,7,0,2,1)
5	(1,1,0)	(1,1,0)	(2,0,7)	(2,0,7,1,2,1)
6	(2,1,0)	(2,1,0)	(3,0,7)	(3,0,7,1,2,1)
7	(3,1,0)	(3,1,0)	(3,0,7)	(3,0,7,0,2,1)
8	(0,2,0)	(0,2,0)	(2,0,7)	(2,0,7,0,2,0)
9	(1,2,0)	(1,2,0)	(2,0,7)	(2,0,7,1,2,0)
10	(2,2,0)	(2,2,0)	(3,0,7)	(3,0,7,1,2,0)
11	(3,2,0)	(3,2,0)	(3,0,7)	(3,0,7,0,2,0)
12	(0,0,1)	(0,0,1)	(2,1,6)	(2,1,6,0,2,1)
13	(1,0,1)	(1,0,1)	(2,1,6)	(2,1,6,1,2,1)
14	(2,0,1)	(2,0,1)	(3,1,6)	(3,1,6,1,2,1)
15	(3,0,1)	(3,0,1)	(3,1,6)	(3,1,6,0,2,1)
16	(0,1,1)	(0,1,1)	(2,1,7)	(2,1,7,0,2,1)
17	(1,1,1)	(1,1,1)	(2,1,7)	(2,1,7,1,2,1)
:	:	:	:	:
44	(0,2,3)	(0,2,3)	(2,1,7)	(2,1,7,0,0,0)
45	(1,2,3)	(1,2,3)	(2,1,7)	(2,1,7,1,0,0)
46	(2,2,3)	(2,2,3)	(3,1,7)	(3,1,7,1,0,0)
47	(3,2,3)	(3,2,3)	(3,1,7)	(3,1,7,0,0,0)



- ランク問合せインターフェース
- 12x3x4の形状指定例
- 12x12の形状指定例
- 6x6x4の形状指定例

## ● 座標の問合せ関数

- 指定されたコミュニケータとそのコミュニケータにおけるプロセスのランクに対応する論理座標またはTofu座標の取得が可能

- Fortran書式

```
USE MPI_EXT
FJMPI_TOPOLOGY_GET_COORDS(COMM, RANK, VIEW, MAXDIMS, COORDS, IERROR)
INTEGER COMM, RANK, VIEW, MAXDIMS, COORDS(*), IERROR
```

- C言語書式

```
#include <mpi-ext.h>
int FJMPI_Topology_get_coords(MPI_Comm comm, int rank, int view, int maxdims, int coords[])
```

- 引数説明

型	変数	説明	IN/OUT
MPI_Comm	comm	コミュニケータを指定	IN
int	rank	コミュニケータ内のランクを指定	IN
int	view	論理座標かTofu座標かを表すマクロを指定 FJMPI_LOGICAL: 論理座標 FJMPI_TOFU_SYS: Tofu座標(実際に割り当てられた座標) FJMPI_TOFU_REL: Tofu座標(引数commのランク0を基準とした相対座標)	IN
int	maxdim	取得する座標の次元数を指定 viewがFJMPI_LOGICALの場合: 1~3を指定 viewがFJMPI_LOGICAL以外の場合: 1~6を指定	IN
int[]	coords	コミュニケータとランクに対応する座標の配列	OUT



## ● 座標の問合せ関数の使用例

### ● サンプルプログラムの実行条件

- ① 4ノード4プロセス実行 (1ノードあたり1プロセス)
- ② 以下のTofu座標 (6次元座標) を取得
  - 実際に割り当てられた座標
  - ランク0を基準とした相対座標

### サンプルプログラム

```
program main
use MPI_EXT

integer myrank, ierr
integer coords(6)
integer coords2(6)

call MPI_INIT(ierr)
call MPI_COMM_RANK(MPI_COMM_WORLD, myrank, ierr)

call FJMPI_TOPOLOGY_GET_COORDS(MPI_COMM_WORLD, myrank, &
                               FJMPI_TOFU_SYS, 6, coords, ierr)
call FJMPI_TOPOLOGY_GET_COORDS(MPI_COMM_WORLD, myrank, &
                               FJMPI_TOFU_REL, 6, coords2, ierr)

write(*, '(a, i4, a, 6i2, a, 6i2)') &
    "rank=", myrank, " coords=", coords, " coords2=", coords2

call MPI_FINALIZE(ierr)
end
```

### 実行結果

```
rank= 0 coords= 4 0 3 0 0 1 coords2= 0 0 0 0 0 0
rank= 1 coords= 4 0 3 0 1 1 coords2= 0 0 0 0 1 0
rank= 2 coords= 4 0 3 1 0 1 coords2= 0 0 0 1 0 0
rank= 3 coords= 4 0 3 1 1 1 coords2= 0 0 0 1 1 0
```

実際に割り当てられ  
たTofu座標  
6次元 (x,y,z,a,b,c)

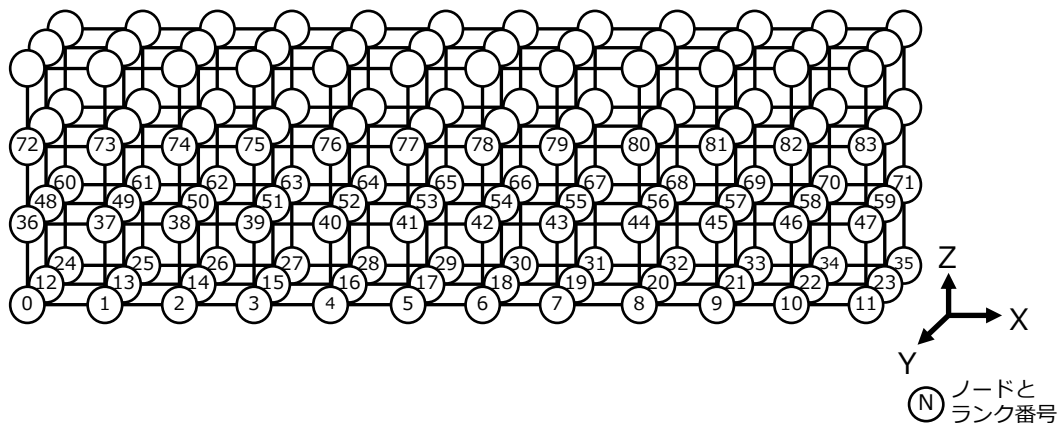
ランク0を基準とし  
た相対座標  
6次元 (x,y,z,a,b,c)

## ● 12x3x4:torusの形状指定例

### ● 実行条件

- 形状は12x3x4:torus
- strict指定は無し
- プロセス数は144 (1ノード1プロセス)
- ランクマップファイルを使用

ランクマップファイルによるノード形状とプロセス配置



### 実行スクリプト

```
#!/bin/bash
#PJM -L rscunit=fx
#PJM -L rscgrp=fx-large
#PJM -L elapse=00:01:00
#PJM -L node=12x3x4:torus
#PJM --mpi proc=144
#PJM --mpi rank-map-hostfile=rankmap_12x3x4
#PJM -s

mpirexec ./a.out
```

### ランクマップファイル(rankmap\_12x3x4)

```
( 0, 0, 0) ← ランク0
( 1, 0, 0) ← ランク1
( 2, 0, 0) ← ランク2
( 3, 0, 0) ← ランク3
( 4, 0, 0) ← ランク4
( 5, 0, 0)
( 6, 0, 0)
( 7, 0, 0)
( 8, 0, 0)
( 9, 0, 0)
(10, 0, 0)
(11, 0, 0)
( 0, 1, 0)
( 1, 1, 0)
( 2, 1, 0)
:
:
( 8, 2, 3) ← ランク140
( 9, 2, 3) ← ランク141
(10, 2, 3) ← ランク142
(11, 2, 3) ← ランク143
```

## ● 12x3x4:torusの形状指定例

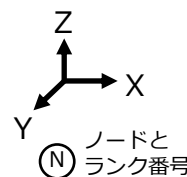
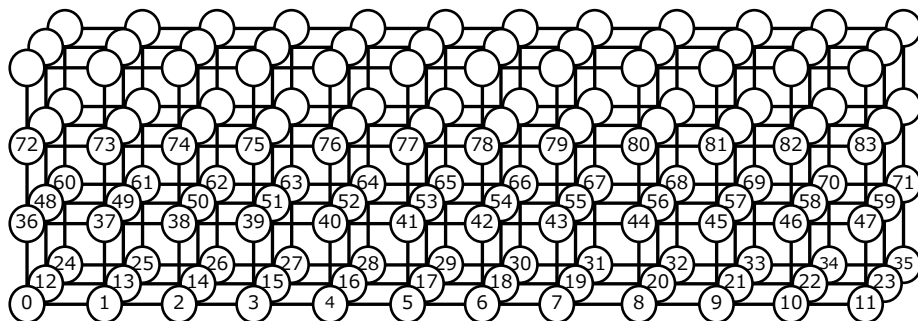
### ● ジョブの統計情報を確認

#### Job Statistical Information

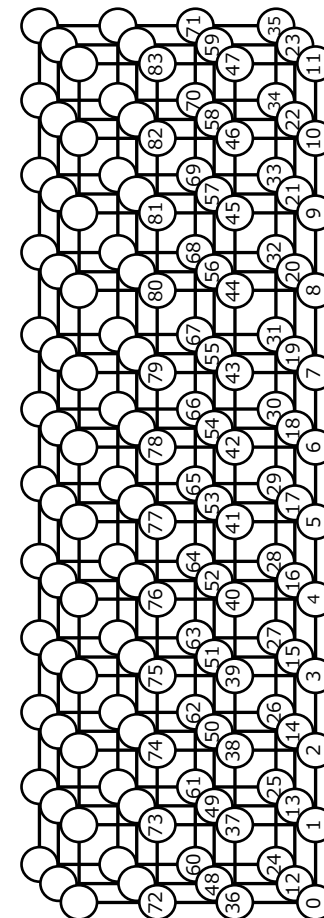
```
JOB ID           : 1000889
SUB JOB NUM      : -
START BULKNO     : -
END BULKNO       : -
HOST NAME        : flow-fx01
JOB NAME         : go12x3x4.sh
JOB TYPE         : BATCH
<略>
NODE NUM (REQUIRE) : 144:12x3x4
NODE NUM (ALLOC)   : 144:4x3x12
NODE NUM (USE)     : 144
NODE NUM (UNUSED)  : 0
```

ノード形状は4x3x12で割り当てられた。  
これは要求した12x3x4は回転させないと  
割り当てられない大きさのため。

<略>

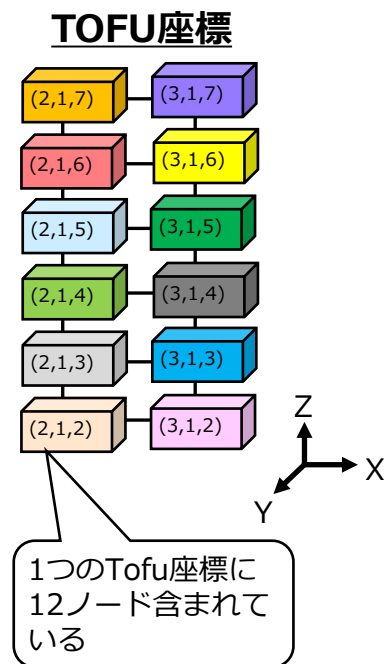
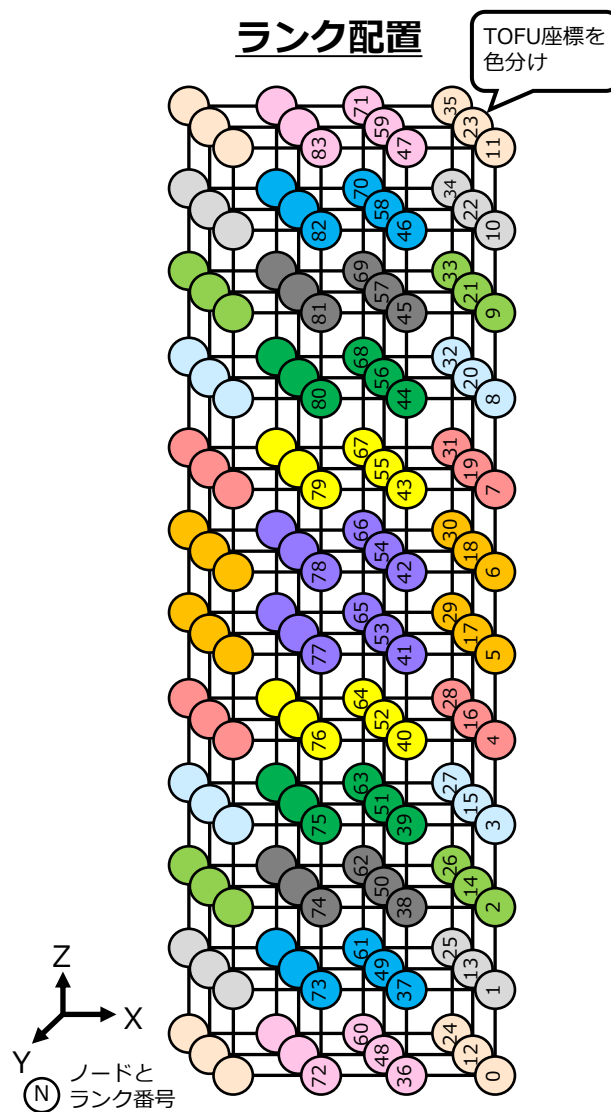


形状を回転して  
割り当てられた



## ● 12x3x4:torusの形状指定例

RANK NO	rankmap	NODE COORDINATE	TOFU COORDINATE	6次元座標
0	(0,0,0)	(0,0,0)	(2,1,2)	(2,1,2,0,0,0)
1	(1,0,0)	(1,0,0)	(2,1,3)	(2,1,3,0,0,0)
2	(2,0,0)	(2,0,0)	(2,1,4)	(2,1,4,0,0,0)
3	(3,0,0)	(3,0,0)	(2,1,5)	(2,1,5,0,0,0)
4	(4,0,0)	(4,0,0)	(2,1,6)	(2,1,6,0,0,0)
5	(5,0,0)	(5,0,0)	(2,1,7)	(2,1,7,0,0,0)
6	(6,0,0)	(6,0,0)	(2,1,7)	(2,1,7,0,0,1)
7	(7,0,0)	(7,0,0)	(2,1,6)	(2,1,6,0,0,1)
8	(8,0,0)	(8,0,0)	(2,1,5)	(2,1,5,0,0,1)
9	(9,0,0)	(9,0,0)	(2,1,4)	(2,1,4,0,0,1)
10	(10,0,0)	(10,0,0)	(2,1,3)	(2,1,3,0,0,1)
11	(11,0,0)	(11,0,0)	(2,1,2)	(2,1,2,0,0,1)
12	(0,1,0)	(0,1,0)	(2,1,2)	(2,1,2,0,2,0)
13	(1,1,0)	(1,1,0)	(2,1,3)	(2,1,3,0,2,0)
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
36	(0,0,1)	(0,0,1)	(3,1,2)	(3,1,2,0,0,0)
37	(1,0,1)	(1,0,1)	(3,1,3)	(3,1,3,0,0,0)
38	(2,0,1)	(2,0,1)	(3,1,4)	(3,1,4,0,0,0)
39	(3,0,1)	(3,0,1)	(3,1,5)	(3,1,5,0,0,0)
40	(4,0,1)	(4,0,1)	(3,1,6)	(3,1,6,0,0,0)
41	(5,0,1)	(5,0,1)	(3,1,7)	(3,1,7,0,0,0)
42	(6,0,1)	(6,0,1)	(3,1,7)	(3,1,7,0,0,1)
43	(7,0,1)	(7,0,1)	(3,1,6)	(3,1,6,0,0,1)
44	(8,0,1)	(8,0,1)	(3,1,5)	(3,1,5,0,0,1)
45	(9,0,1)	(9,0,1)	(3,1,4)	(3,1,4,0,0,1)
46	(10,0,1)	(10,0,1)	(3,1,3)	(3,1,3,0,0,1)
47	(11,0,1)	(11,0,1)	(3,1,2)	(3,1,2,0,0,1)
48	(0,1,1)	(0,1,1)	(3,1,2)	(3,1,2,0,2,0)
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
138	(6,2,3)	(6,2,3)	(2,1,7)	(2,1,7,1,1,1)
139	(7,2,3)	(7,2,3)	(2,1,6)	(2,1,6,1,1,1)
140	(8,2,3)	(8,2,3)	(2,1,5)	(2,1,5,1,1,1)
141	(9,2,3)	(9,2,3)	(2,1,4)	(2,1,4,1,1,1)
142	(10,2,3)	(10,2,3)	(2,1,3)	(2,1,3,1,1,1)
143	(11,2,3)	(11,2,3)	(2,1,2)	(2,1,2,1,1,1)



## ● 12x12:torusの形状指定例

### ● 実行条件

- 形状は12x12:torus
- プロセス数は144 (1ノード1プロセス)
- ランクマップファイルを使用

#### 実行スクリプト

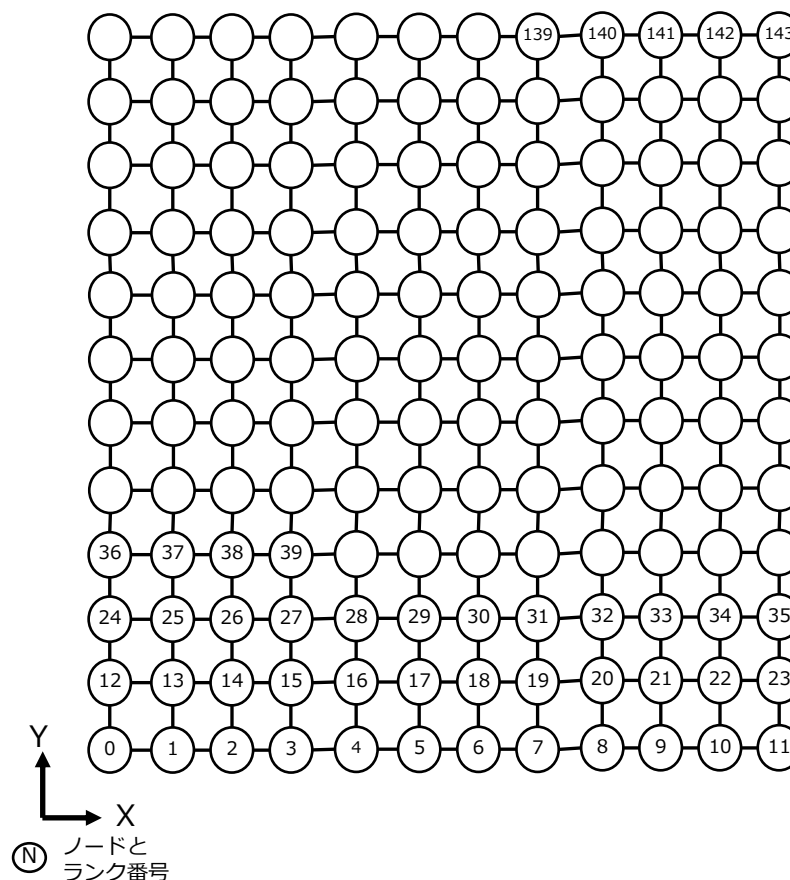
```
#!/bin/bash
#PJM -L rscunit=fx
#PJM -L rscgrp=fx-large
#PJM -L elapse=00:01:00
#PJM -L node=12x12:torus
#PJM --mpi proc=144
#PJM --mpi rank-map-hostfile=rankmap_12x12
#PJM -s

mpiexec ./a.out
```

#### ランクマップファイル (rankmap\_12x12)

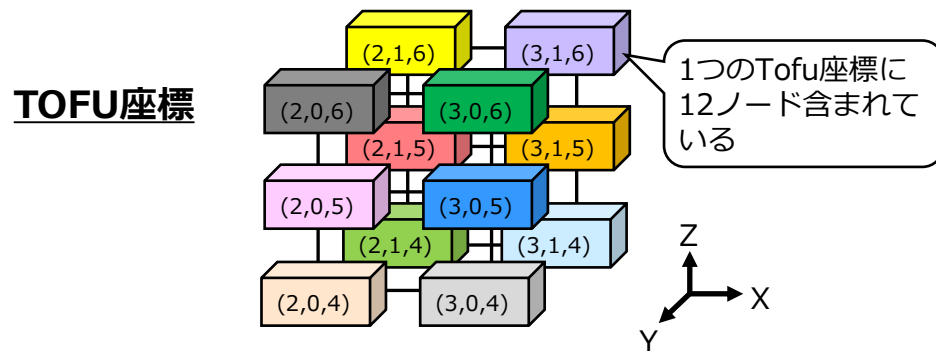
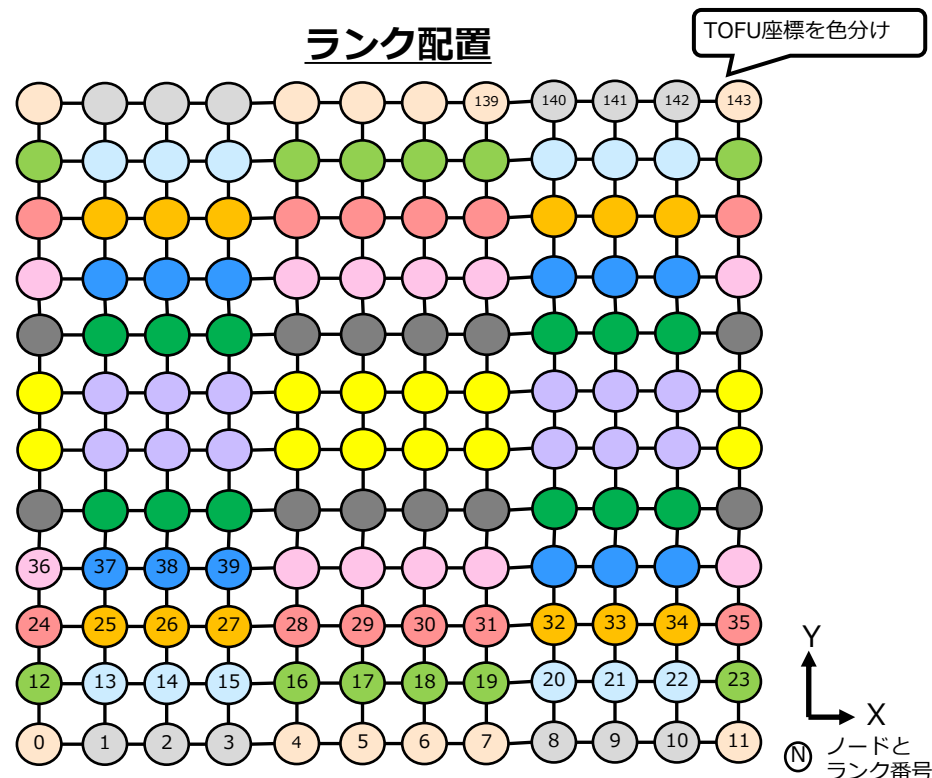
```
( 0, 0) ← ランク0
( 1, 0) ← ランク1
( 2, 0) ← ランク2
( 3, 0) ← ランク3
( 4, 0) ← ランク4
( 5, 0)
( 6, 0)
( 7, 0)
( 8, 0)
( 9, 0)
(10, 0)
(11, 0)
( 0, 1)
( 1, 1)
( 2, 1)
:
:
( 8, 11) ← ランク140
( 9, 11) ← ランク141
(10, 11) ← ランク142
(11, 11) ← ランク143
```

#### ランクマップファイルによるプロセス配置



## ● 12x12:torusの形状指定例

RANK NO	rankmap	NODE COORDINATE	TOFU COORDINATE	6次元座標
0	(0,0)	(0,0,0)	(2,0,4)	(2,0,4,0,0,0)
1	(1,0)	(1,0,0)	(3,0,4)	(3,0,4,0,0,0)
2	(2,0)	(2,0,0)	(3,0,4)	(3,0,4,0,1,0)
3	(3,0)	(3,0,0)	(3,0,4)	(3,0,4,0,2,0)
4	(4,0)	(4,0,0)	(2,0,4)	(2,0,4,0,2,0)
5	(5,0)	(5,0,0)	(2,0,4)	(2,0,4,0,1,0)
6	(6,0)	(6,0,0)	(2,0,4)	(2,0,4,1,1,0)
7	(7,0)	(7,0,0)	(2,0,4)	(2,0,4,1,2,0)
8	(8,0)	(8,0,0)	(3,0,4)	(3,0,4,1,2,0)
9	(9,0)	(9,0,0)	(3,0,4)	(3,0,4,1,1,0)
10	(10,0)	(10,0,0)	(3,0,4)	(3,0,4,1,0,0)
11	(11,0)	(11,0,0)	(2,0,4)	(2,0,4,1,0,0)
12	(0,1)	(0,1,0)	(2,1,4)	(2,1,4,0,0,0)
13	(1,1)	(1,1,0)	(3,1,4)	(3,1,4,0,0,0)
:	:	:	:	:
36	(0,3)	(0,3,0)	(2,0,5)	(2,0,5,0,0,0)
37	(1,3)	(1,3,0)	(3,0,5)	(3,0,5,0,0,0)
38	(2,3)	(2,3,0)	(3,0,5)	(3,0,5,0,1,0)
39	(3,3)	(3,3,0)	(3,0,5)	(3,0,5,0,2,0)
40	(4,3)	(4,3,0)	(2,0,5)	(2,0,5,0,2,0)
41	(5,3)	(5,3,0)	(2,0,5)	(2,0,5,0,1,0)
42	(6,3)	(6,3,0)	(2,0,5)	(2,0,5,1,1,0)
43	(7,3)	(7,3,0)	(2,0,5)	(2,0,5,1,2,0)
44	(8,3)	(8,3,0)	(3,0,5)	(3,0,5,1,2,0)
45	(9,3)	(9,3,0)	(3,0,5)	(3,0,5,1,1,0)
46	(10,3)	(10,3,0)	(3,0,5)	(3,0,5,1,0,0)
47	(11,3)	(11,3,0)	(2,0,5)	(2,0,5,1,0,0)
48	(0,4)	(0,4,0)	(2,0,6)	(2,0,6,0,0,0)
:	:	:	:	:
138	(6,11)	(6,11,0)	(2,0,4)	(2,0,4,1,1,1)
139	(7,11)	(7,11,0)	(2,0,4)	(2,0,4,1,2,1)
140	(8,11)	(8,11,0)	(3,0,4)	(3,0,4,1,2,1)
141	(9,11)	(9,11,0)	(3,0,4)	(3,0,4,1,1,1)
142	(10,11)	(10,11,0)	(3,0,4)	(3,0,4,1,0,1)
143	(11,11)	(11,11,0)	(2,0,4)	(2,0,4,1,0,1)



## ● 6x6x4:torusの形状指定例

### ● 実行条件

- 形状は6x6x4:torus
- プロセス数は144 (1ノード1プロセス)
- ランクマップファイルを使用

### 実行スクリプト

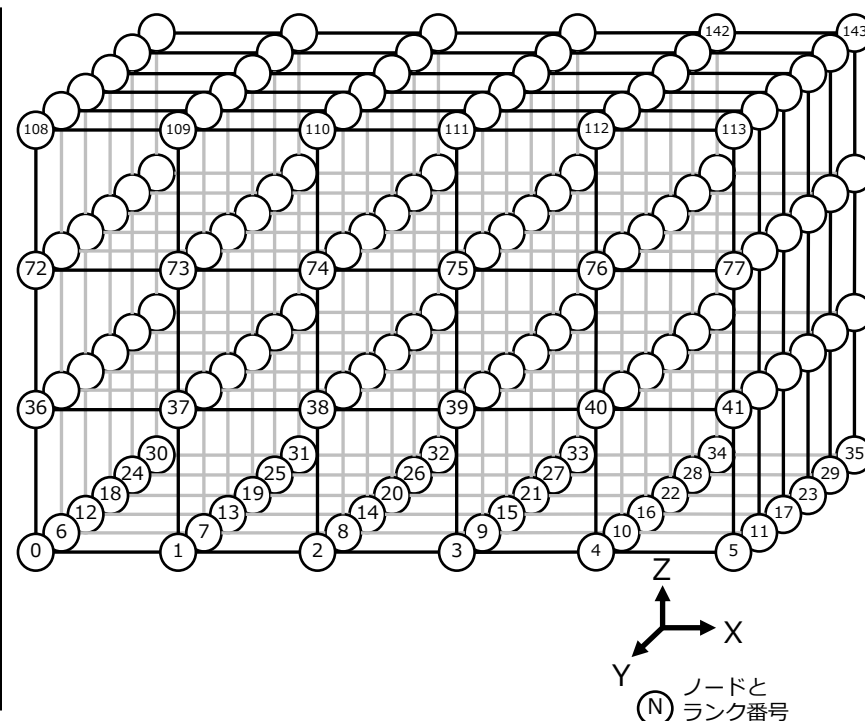
```
#!/bin/bash
#PJM -L rscunit=fx
#PJM -L rscgrp=fx-large
#PJM -L elapse=00:01:00
#PJM -L node=6x6x4:torus:strict
#PJM --mpi proc=144
#PJM --mpi rank-map-hostfile=rankmap_6x6x4
#PJM -s

mpiexec ./a.out
```

### ランクマップファイル (rankmap\_6x6x4)

```
( 0, 0, 0) ← ランク0
( 1, 0, 0) ← ランク1
( 2, 0, 0) ← ランク2
( 3, 0, 0) ← ランク3
( 4, 0, 0) ← ランク4
( 5, 0, 0)
( 0, 1, 0)
( 1, 1, 0)
( 2, 1, 0)
( 3, 1, 0)
( 4, 1, 0)
( 5, 1, 0)
( 0, 2, 0)
( 1, 2, 0)
( 2, 2, 0)
:
:
( 2, 5, 3) ← ランク140
( 3, 5, 3) ← ランク141
( 4, 5, 3) ← ランク142
( 5, 5, 3) ← ランク143
```

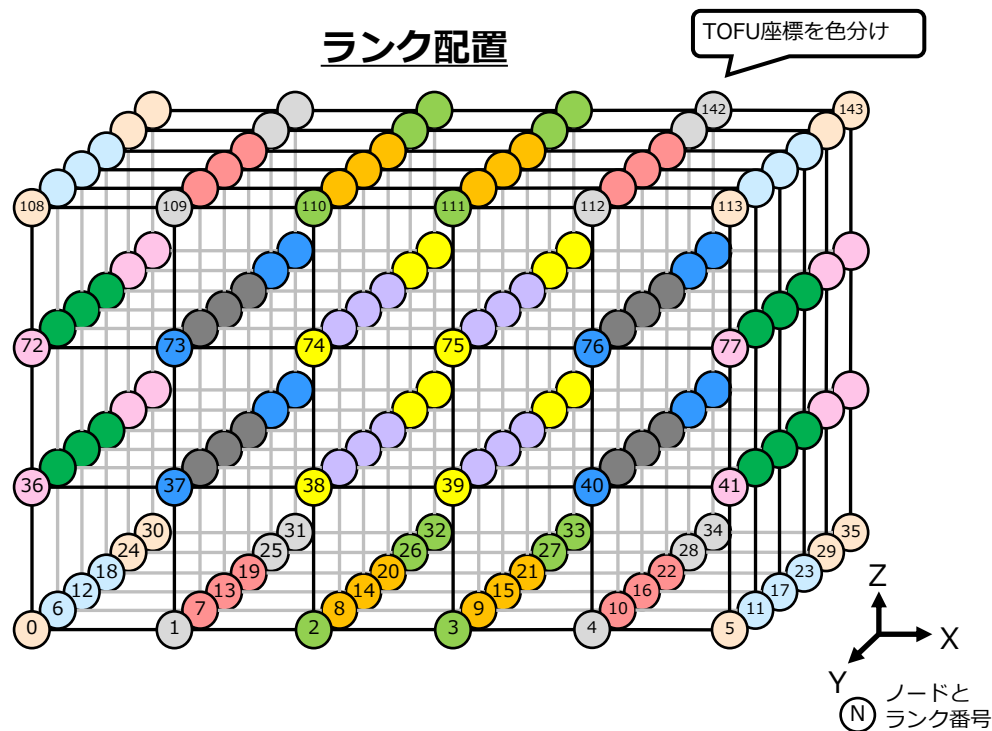
### ランクマップファイルによるプロセス配置



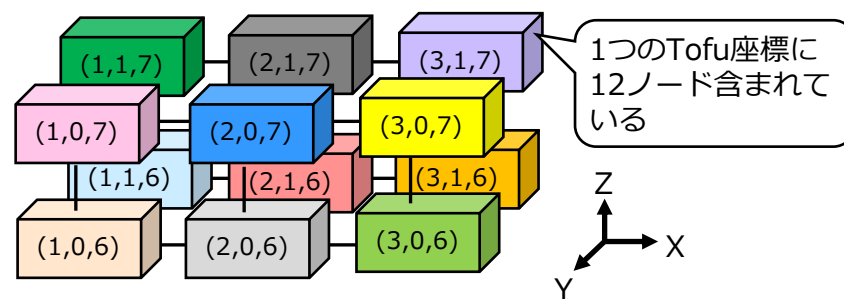


## ● 6x6x4:torusの形状指定例

RANK NO	rankmap	NODE COORDINATE	TOFU COORDINATE	6次元座標
0	(0,0,0)	(0,0,0)	(1,0,6)	(1,0,6,0,0,0)
1	(1,0,0)	(1,0,0)	(2,0,6)	(2,0,6,0,0,0)
2	(2,0,0)	(2,0,0)	(3,0,6)	(3,0,6,0,0,0)
3	(3,0,0)	(3,0,0)	(3,0,6)	(3,0,6,1,0,0)
4	(4,0,0)	(4,0,0)	(2,0,6)	(2,0,6,1,0,0)
5	(5,0,0)	(5,0,0)	(1,0,6)	(1,0,6,1,0,0)
6	(0,1,0)	(0,1,0)	(1,1,6)	(1,1,6,0,0,0)
7	(1,1,0)	(1,1,0)	(2,1,6)	(2,1,6,0,0,0)
8	(2,1,0)	(2,1,0)	(3,1,6)	(3,1,6,0,0,0)
9	(3,1,0)	(3,1,0)	(3,1,6)	(3,1,6,1,0,0)
10	(4,1,0)	(4,1,0)	(2,1,6)	(2,1,6,1,0,0)
11	(5,1,0)	(5,1,0)	(1,1,6)	(1,1,6,1,0,0)
12	(0,2,0)	(0,2,0)	(1,1,6)	(1,1,6,0,1,0)
13	(1,2,0)	(1,2,0)	(2,1,6)	(2,1,6,0,1,0)
⋮	⋮	⋮		
36	(0,0,1)	(0,0,1)	(1,0,7)	(1,0,7,0,0,0)
37	(1,0,1)	(1,0,1)	(2,0,7)	(2,0,7,0,0,0)
38	(2,0,1)	(2,0,1)	(3,0,7)	(3,0,7,0,0,0)
39	(3,0,1)	(3,0,1)	(3,0,7)	(3,0,7,1,0,0)
40	(4,0,1)	(4,0,1)	(2,0,7)	(2,0,7,1,0,0)
41	(5,0,1)	(5,0,1)	(1,0,7)	(1,0,7,1,0,0)
42	(0,1,1)	(0,1,1)	(1,1,7)	(1,1,7,0,0,0)
43	(1,1,1)	(1,1,1)	(2,1,7)	(2,1,7,0,0,0)
44	(2,1,1)	(2,1,1)	(3,1,7)	(3,1,7,0,0,0)
45	(3,1,1)	(3,1,1)	(3,1,7)	(3,1,7,1,0,0)
46	(4,1,1)	(4,1,1)	(2,1,7)	(2,1,7,1,0,0)
47	(5,1,1)	(5,1,1)	(1,1,7)	(1,1,7,1,0,0)
48	(0,2,1)	(0,2,1)	(1,1,7)	(1,1,7,0,1,0)
⋮	⋮	⋮		
138	(0,5,3)	(0,5,3)	(1,0,6)	(1,0,6,0,1,1)
139	(1,5,3)	(1,5,3)	(2,0,6)	(2,0,6,0,1,1)
140	(2,5,3)	(2,5,3)	(3,0,6)	(3,0,6,0,1,1)
141	(3,5,3)	(3,5,3)	(3,0,6)	(3,0,6,1,1,1)
142	(4,5,3)	(4,5,3)	(2,0,6)	(2,0,6,1,1,1)
143	(5,5,3)	(5,5,3)	(1,0,6)	(1,0,6,1,1,1)



### TOFU座標





**Thank you**

